

# 『進化するガードマン (安全・安心のプロフェッショナル)』

セコム株式会社 執行役員  
技術開発本部 本部長

進藤 健輔



私は社会人になった際に、ガードマンを数年間経験しました。なかなか経験することがないと思いまして、今回、私の体験も踏まえ、ガードマンに関連した内容を紹介させていただきます。

都心の大きなビルディングやイベント会場、美術館、空港、重要施設には、凛々しく精悍な警備員を何人も見かけます。彼らは、そのビルディング等、重要施設やイベントの安全・安心を守るために、様々な教育を受け、使命感をもって職務に取り組んでいます。

警備員と言っても幅広く、「交通誘導」「雑踏」「空港保安」「施設」「巡回」と様々な役務によって分類されていますが、一般的に「交通誘導」を除いた警備員をガードマンと呼んでいます。

## ガードマン、言葉の由来

このガードマンという言葉は、日本特有の呼び名であることはあまり知られていません。この呼び名の由来は、1965年4月～1971年12月の6年9ヶ月(全350話)にTBSテレビで放映された「ザ・ガードマン」(放映開始初期は、「東京警備指令 ザ・ガードマン」)からきていると言われています。

このテレビ放送は、当時とても人気があり、様々な個性の人がそれぞれに強くて、頭が切れ、カッコ良く、私も小学生の頃、毎週欠かさず見ていましたことを記憶しています。



## ガードマンへの期待

こうしたカッコ良い職業であるはずのガードマン職の求人倍率が、他の業種に比べ「きつい」…で敬遠され、非常に高い状況であることをよく報道で耳にします。

しかし、ガードマンは安全・安心のプロフェッショナルですから、庁舎・空港・発電所等多くの施設に配置されていますし、2020年の東京オリンピック等、大規模なイベントを控え、これから経済が発展する中、多くの施設・イベントにガードマンが必要になるのは明らかであり、ガードマンへの期待は非常に高い状況が続いていると考えます。

## ITを利用したガードマン

このような状況の中、近年の技術の向上と人員不足を補うために、ガードマンもITを利用した効率の良い警備の実現が進められています。例えば、従来は固定カメラによる周囲の画像監視が主体でしたが、現在では、ガードマンに装備されたウェアラブルカメラによる取得した画像を警備本部に無線送信



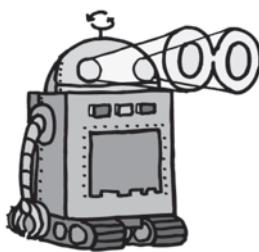
する装備が広がってきています。さらにその画像をAIによって処理することで、今までガードマン自身の経験やスキルによって判断されていたものが、その画像を取得することで、自動的に問題の抽出を行い、警備本部と情報を共有した連携対応ができるようになります。こうすることにより、迅速で的確な対応が、全てのガードマンにできるようになることでしょう。

### ロボットと連携するガードマン

さらに今後は進化し、ロボットによる警備が現実のものになってきます。近年は、ロボット技術も向上し、ありとあらゆるところにロボットが入り込んでくると言われています。身近なところでは、掃除ロボットがありますが、利用者が増えています。

このように便利なロボットが身近になることと同じように、人員が不足している警備の世界にも広く導入されいくことが予想されています。

各種センサーを利用して、警備する監視場所を自律で走行し、搭載されているカメラやセンサーで侵入者を自動的にとらえるようになりますし、複数台のロボットを使用することで、きめ細やかな監視を行うことができます。



しかし、すべてがロボットができるようになるにはまだ先になるとしても、現時点でもロボットができる業務もたくさんあることから、人とロボットが連携して警備を行うことが徐々に広がってゆくと感じています。今後は、ガードマンとガードロボ(私が勝手につけた名前)による効率よい警備が実現されていくと思っています。

### ロボット警備への期待

最後に、私も入社してから数年間ある施設でガードマンをしていた時の経験をお話します。ある施設では、定期的に各種展示会が行われるエリアがあり、その展示物の警備を行っていました。展示物もさまざまであり、高価な絵画や茶器、宝飾品等が主な展示物でした。その展示物を昼・夜展示場内で警備を行っていましたが、その中でも現在も良く覚えている警備の経験をお話します。その経験とは、季節が夏ということで幽霊に関する絵画の展示会の警備でした。展示物は、おぞましい顔をした幽霊から、とても幽霊とは思えないほど美しい幽霊(ずっと見つめると顔が変化するとのコメントがありました)まで、様々な幽霊画が展示されていました。昼間帯は、展示会場も明るく、鑑賞しているお客様がいるので、幽霊画も少し気持ちが悪いぐらいの感覚でしたが、夜間の巡回では、幽霊などいないとわかつっていても本当に恐怖を感じました。当然仕事ですからしっかり巡回を行いましたが、大人になって通常とは違った怖さを感じたことをよく憶えています。



これからは、先ほど述べたように先進的なロボットが活躍していくことになりますので、人がこのような体験することが少なくなり、代わりにロボットが夜の巡回をこなしていくことでしょう。

様々な形で、ガードマンが進化してゆくこれからが大変楽しみです。